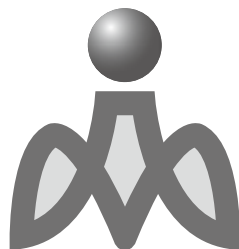


山 梨 県

商工会地区

中小企業景況調査報告書

〔平成31年1月～3月実績〕
〔平成31年4月～6月予測〕



未来に敏感、人が中心

山梨県商工会連合会

目 次

I 調 査 要 領	1
II 景 況	
1. 産業全体の業況概観	2
2. 製造業の動向	
(1) 景 況 概 観	3
(2) 主な項目で見る業況	3
3. 建設業の動向	
(1) 景 況 概 観	6
(2) 主な項目で見る業況	6
4. 小売業の動向	
(1) 景 況 概 観	9
(2) 主な項目で見る業況	9
5. サービス業の動向	
(1) 景 況 概 観	12
(2) 主な項目で見る業況	12

【I】 調 査 要 領

1. 調 査 対 象

(1) 対象地区 19商工会 (2) 対象企業数 164企業 (3) 回答企業数 164企業

2. 調査対象期間

第4四半期 平成31年1月～3月期 「調査時点：平成31年3月1日」

3. 調 査 方 法

県内の調査対象企業を19商工会の経営指導員等が訪問面接調査

4. 調査対象企業（モニター企業）の商工会別、業種内訳

商工会名	製 造 業	建 設 業	小 売 業	サービ業	計
都 留 市	3	2	3	4	12
山 梨 市	1	2	2	3	8
大 月 市	2	1	3	2	8
韮 崎 市	2	2	1	2	7
南アルプス市	3	2	4	6	15
北 杜 市	4	2	5	4	15
甲 斐 市	4	3	5	2	14
笛 吹 市	3	2	4	6	15
上 野 原 市	2	1	2	1	6
甲 州 市	3	1	2	3	9
中 央 市	2	1	2	1	6
市 川 三 郷 町	2	1	1	2	6
身 延 町	1	1	2	2	6
南 部 町	1	0	1	1	3
富 士 川 町	1	1	1	2	5
昭 和 町	1	1	3	3	8
西 桂 町	0	0	1	1	2
南 都 留 中 部	1	1	2	2	6
河 口 湖	1	1	6	5	13
計	37	25	50	52	164

5. そ の 他

①本報告書のDIとは、デフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について前年同期と比較して、増加（上昇、好転、長期化等）とする企業割合と、逆に減少（低下、悪化、短期化等）とする企業割合の差を示すものである。

②次頁【II】1. 産業全体の業況概観については、商工会調査企業ばかりでなく、他の本県経済団体調査企業（卸売業を含む）を含んだ285サンプルによるものである。

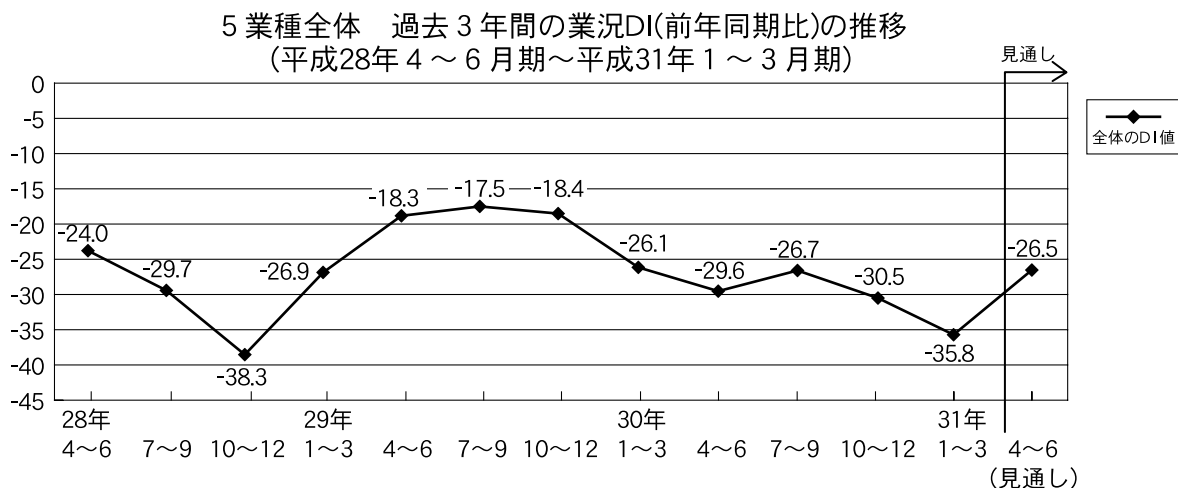
【Ⅱ】 景 況

1. 産業全体の業況概観

本県における5業種全体の業況判断DI、及び、産業別の業況判断DIについてみる。

まず、前年同期比でみた過去3年間の5業種全体の業況判断DIである。今期の業況判断DIは、▲35.8と前期比で5.3ポイント悪化している。

一方、来期については、▲26.5と大幅に改善する見通しである。

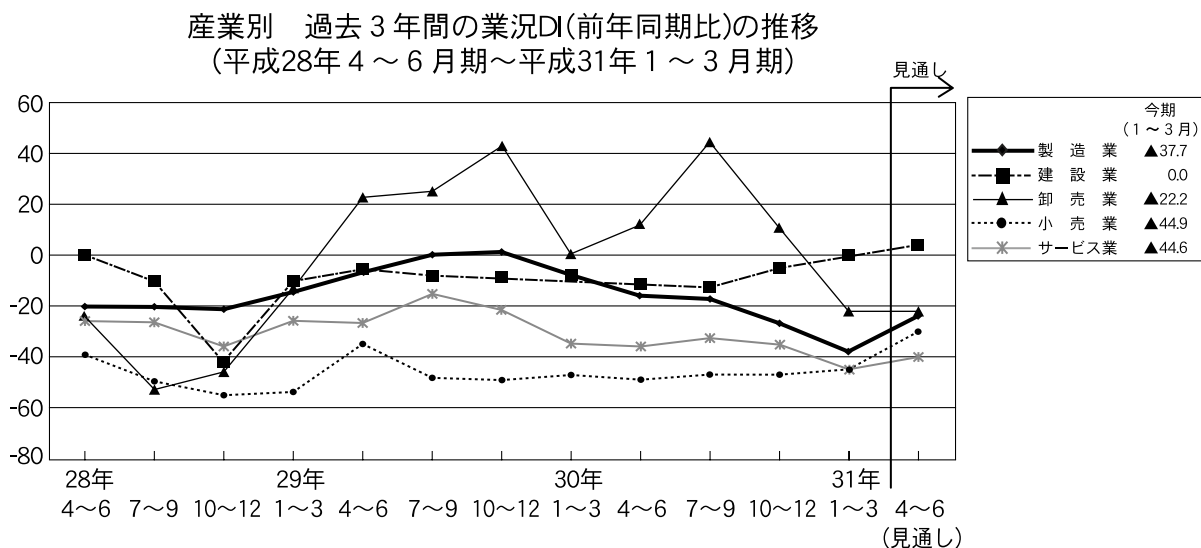


次に、前年同期比でみた過去3年間の産業別の業況判断DIである。

建設業が0.0と前期比で5.1ポイント、小売業が▲44.9と前期比で3.0ポイント改善している。

一方、製造業が▲37.7と前期比で11.0ポイント、卸売業が▲22.2と前期比で33.3ポイント、サービス業が▲44.6と9.4ポイント悪化している。

来期は、卸売業を除く全業種が改善する見通しである（卸売業は横ばい見通し）。



【注記】 上記、産業全体の業況概観については、商工会調査対象164企業に甲府・富士吉田地域等からの121企業を含めた285サンプルを使用。卸売業については、中小企業基盤整備機構調査によるデータのみを使用。次ページからの産業別景況DIについては、商工会地区企業のサンプル分析に基づくものである。

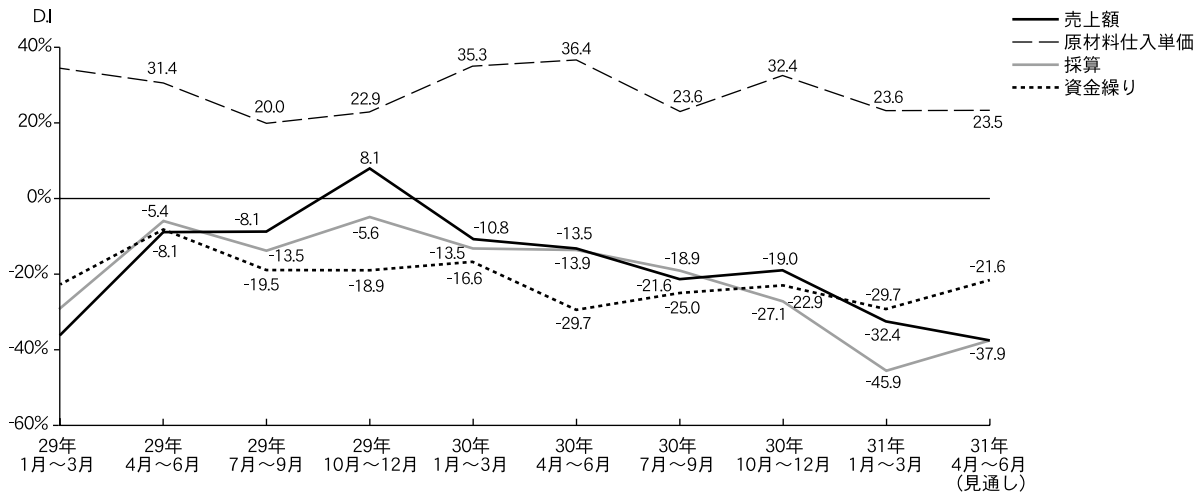
2. 製造業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期は▲32.4と前期比で13.4ポイント悪化している。来期は▲37.9と更に悪化する見通しである。原料仕入単価D Iは、今期は23.6と前期比で8.8ポイント低下（改善）している。来期は23.5と横ばい見通しである。採算D Iは、今期は▲45.9と前期比で18.8ポイント悪化している。一方、来期は▲37.9と改善する見通しである。資金繰りD Iは、今期は▲29.7と前期比で6.8ポイント悪化している。一方、来期は▲21.6と改善する見通しである。

今期は、原材料仕入単価D Iを除いて悪化している。来期は、採算D I、資金繰りD Iが改善、原材料仕入単価D Iが横ばい見通しである（売上額D Iのみ悪化する見通し）。

山梨県 製造業 主要景況項目の推移－前年同期比－

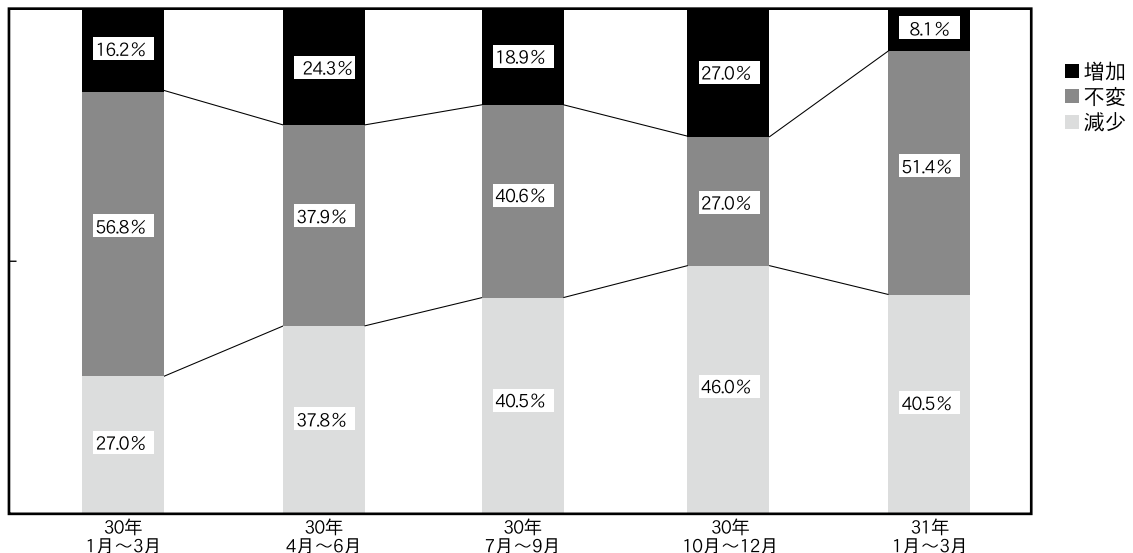


(2) 主な項目で見る業況

① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数37社））

「増加」と答えた企業の割合は、8.1%（3社）と減少（前期比▲7社）している。「不変」は51.4%（19社）と増加（前期比+9社）、「減少」は40.5%（15社）と減少している（前期比▲2社）。

山梨県 製造業 売上額の状況－前年同期比－



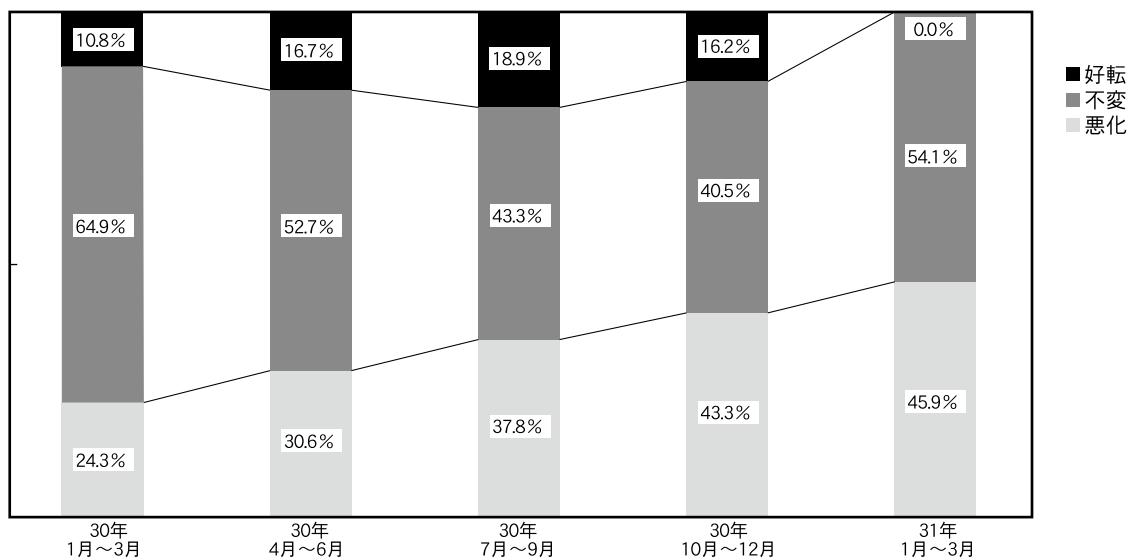
② 採算（採算D I の内容（回答企業数37社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、0.0%（0）と減少している（前期比▲6社）。

「不変」は54.1%（20社）と増加（前期比+5社）、「悪化」は45.9%（17社）と増加している（前期比+1社）。

山梨県 製造業 採算の状況—前年同期比—

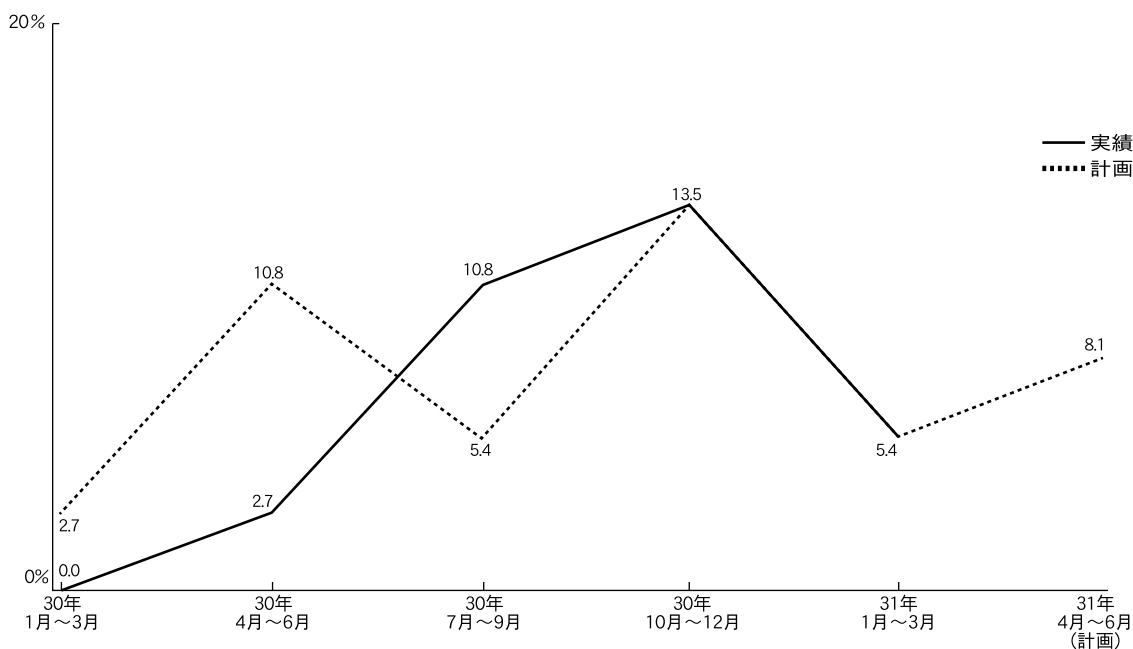


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数37社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は5.4%（2社）であった。その設備投資の内容は、「工場建物」、「車両・運搬具」が1件ずつになる。

来期の計画については、8.1%（3社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「生産設備」、「車両・運搬具」、「その他」が1件ずつになる。

山梨県 製造業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数30社）

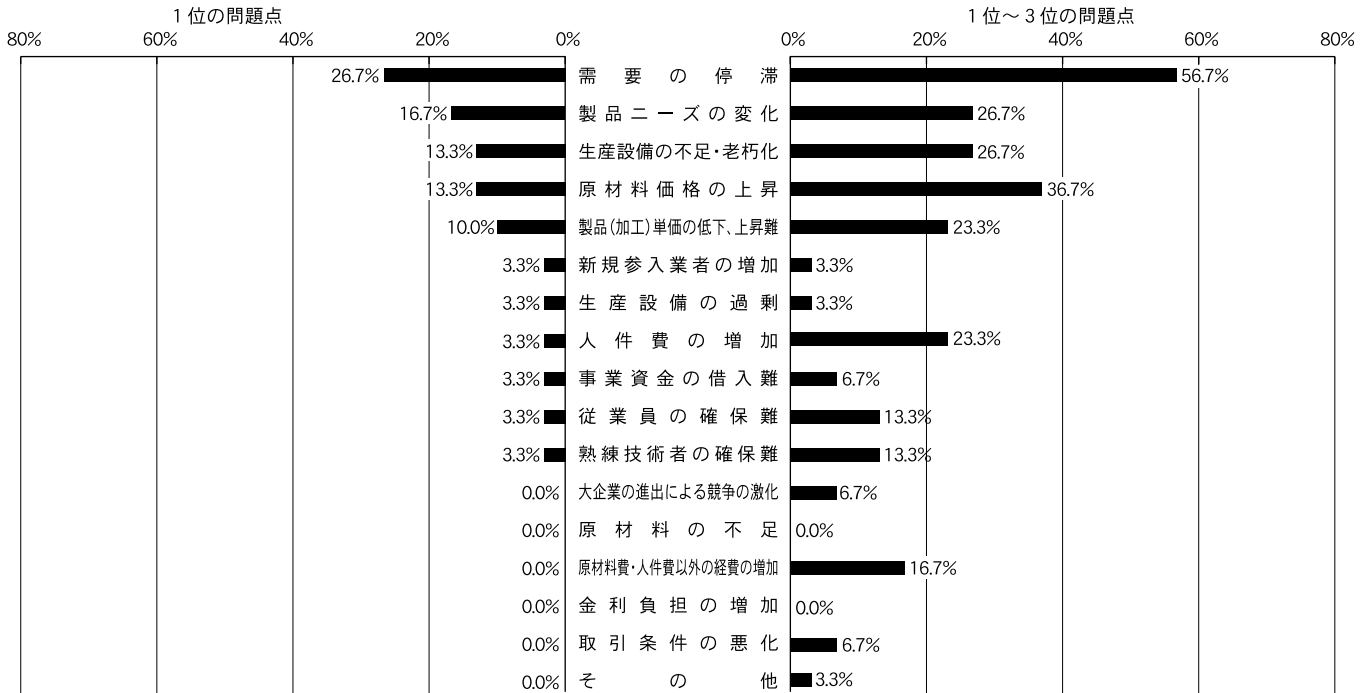
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「需要の停滞」の26.7%（8社）であり、2番目は、「製品ニーズの変化」の16.7%（5社）である。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「需要の停滞」の56.7%（17社）であり、2番目は、「原材料価格の上昇」の36.7%（11社）である。

山梨県 製造業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
食料品製造業	6	16.2
飲料・飼料・たばこ製造業	1	2.7
衣服・その他繊維製品製造業	0	0.0
印刷・同関連業	3	8.1
化学工業	1	2.7
プラスチック製品製造業	4	10.8
金属製品製造業	2	5.4
一般機械器具製造業	14	37.8
電気機械器具製造業	2	5.4
輸送用機械器具製造業	0	0.0
その他製造業	4	10.8
合計	37	100.0

従業員規模別

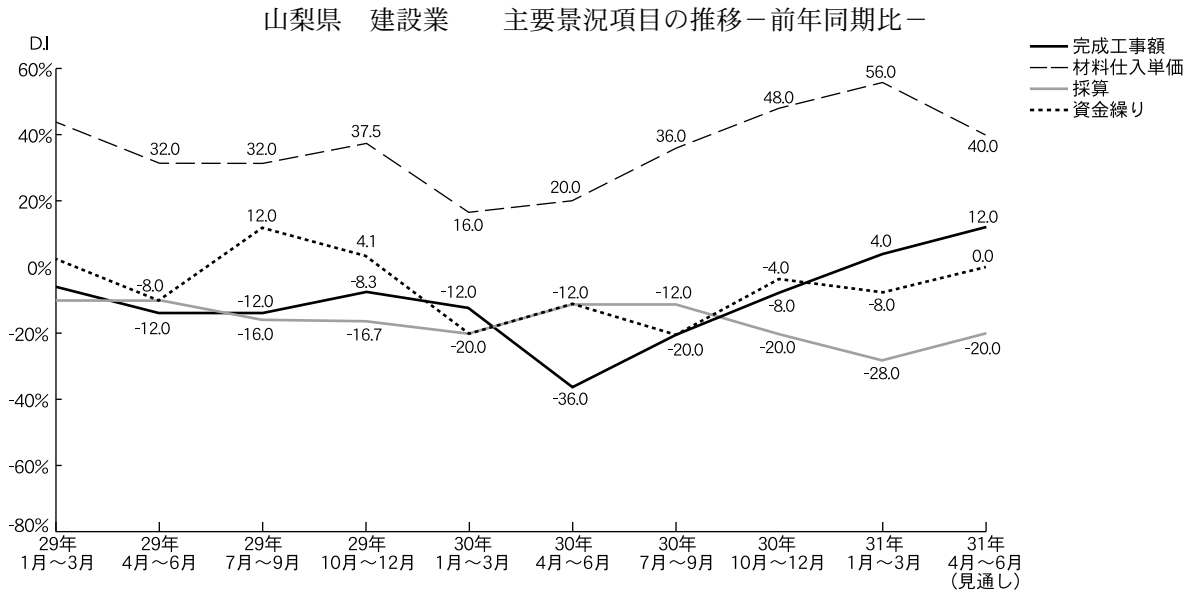
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数(%)	構成比(%)	企業数(%)	構成比(%)
2人以下	22	59.5	18	48.6
3人～5人以下	6	16.2	5	13.5
6人～10人以下	6	16.2	10	27.0
11人～20人以下	3	8.1	4	10.8
合計	37	100.0	37	100.0

3. 建設業の動向

(1) 景況概観

完成工事額D Iは、今期は4.0と前期比12.0ポイント改善している。来期は12.0と更に改善する見通しである。材料仕入単価D Iは、今期は56.0と前期比8.0ポイント上昇（悪化）している。一方、来期は40.0と低下（改善）する見通しである。採算D Iは、今期は▲28.0と前期比8.0ポイント悪化している。一方、来期は▲20.0と改善する見通しである。資金繰りD Iは、今期は▲8.0と前期比4.0ポイント悪化している。一方、来期は0.0と改善する見通しである。

今期は、完成工事額D Iを除いて悪化している。来期は、全てのD Iが改善する見通しである。

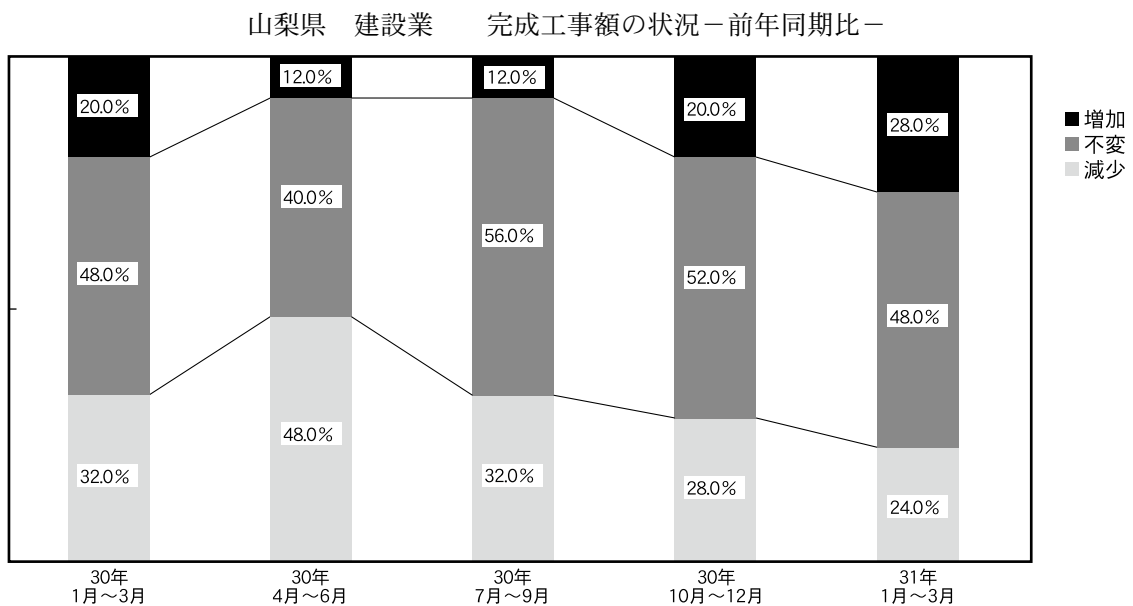


(2) 主な項目で見る業況

① 完成工事額（完成工事額D Iの内容（回答企業数25社））

「増加」と答えた企業の割合は、28%（7社）と増加（前期比+2社）。

「不変」は48.0%（12社）と減少（前期比▲1社）、「減少」は24.0%（6社）と減少している（前期比▲1社）。



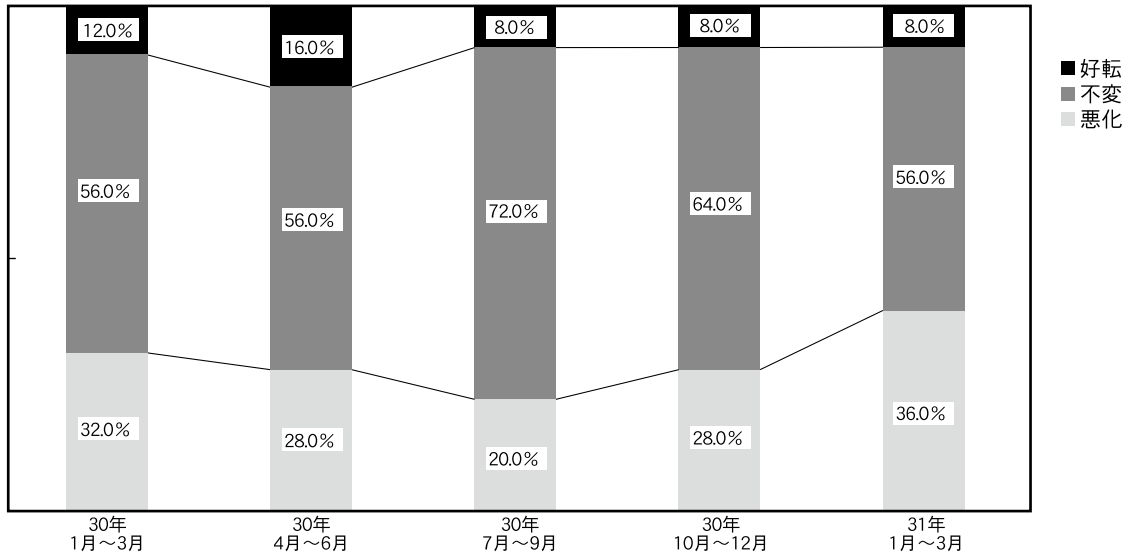
② 採算（採算D I の内容（回答企業数25社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、8.0%（2社）と横ばい。

「不変」は56.0%（14社）と減少（前期比▲2社）、「悪化」は36.0%（9社）と増加している（前期比+2社）。

山梨県 建設業 採算の状況－前年同期比－

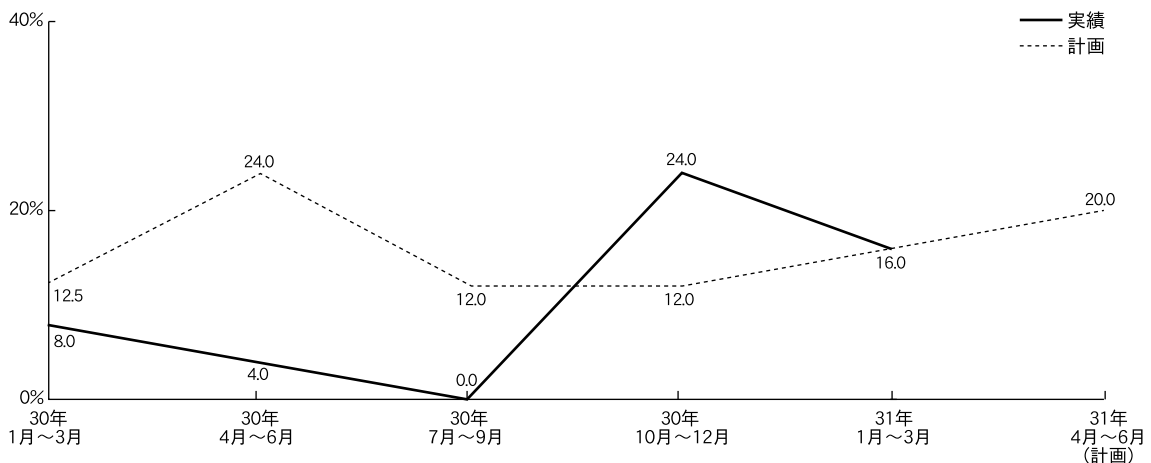


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数25社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は16.0%（4社）であった。その設備投資の内容は、「建物」、「建設機械」、「OA機器」、「その他」が1件ずつになる。

来期の計画については、20.0%（5社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「車両・運搬具」が3件、「OA機器」が2件、「土地」が1件になる。

山梨県 建設業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数24社）

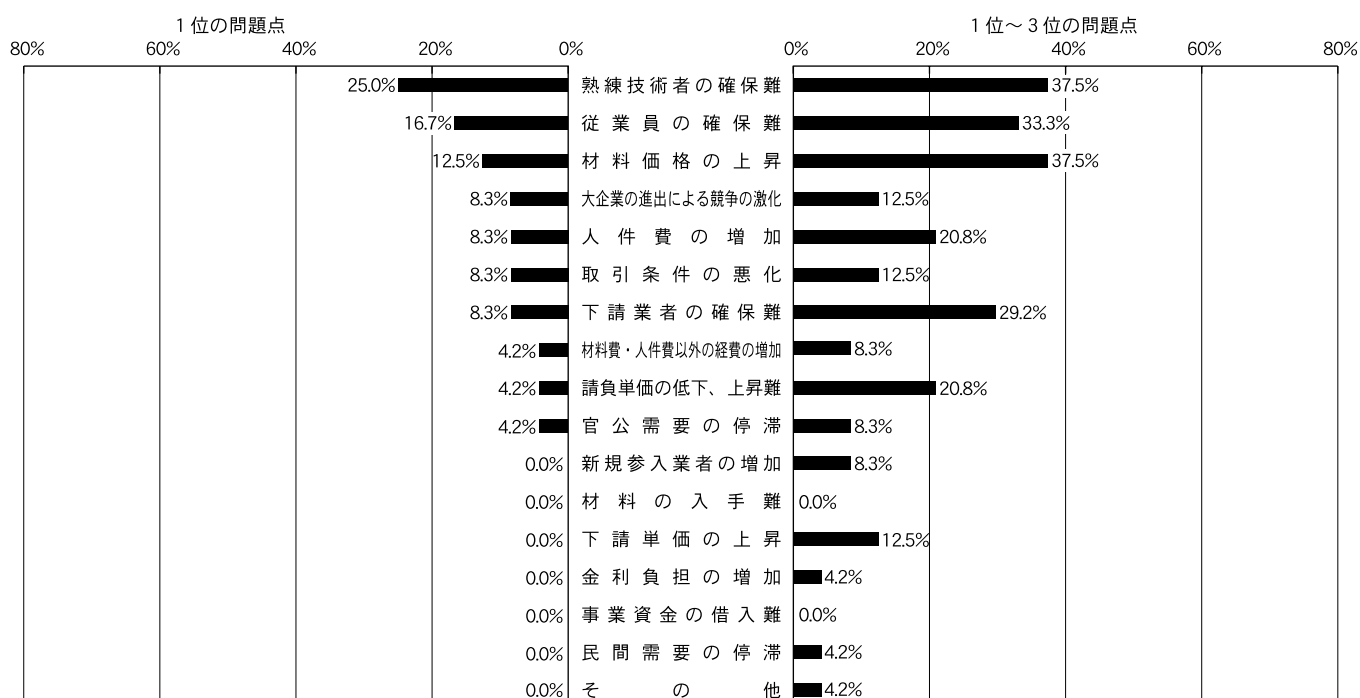
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「熟練技術者の確保難」の25.0%（6社）であり、2番目に多かったのは、「従業員の確保難」の16.7%（4社）である。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「熟練技術者の確保難」、「材料価格の上昇」の37.5%（9社）であり、2番目に多かったのは、「従業員の確保難」の33.3%（8社）である。

山梨県 建設業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
総合工事業	19	76.0
職別工事業	4	16.0
設備工事業	2	8.0
合計	25	100.0

従業員規模別

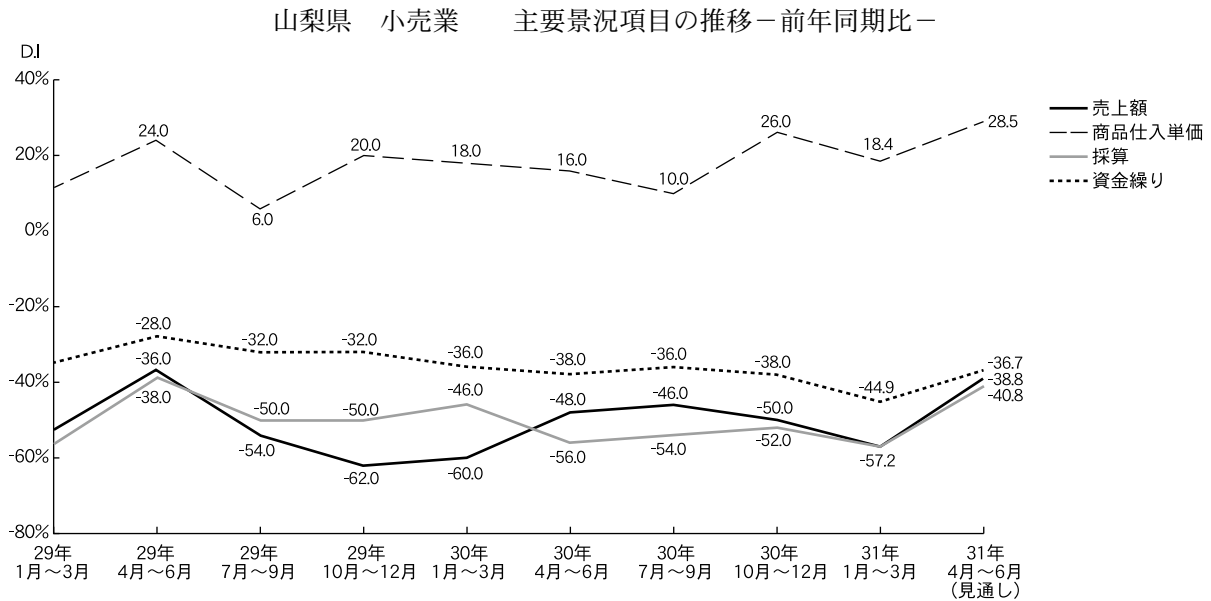
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い		企業数(%)	構成比(%)
2人以下	9	36.0	8	32.0
3人～5人以下	7	28.0	8	32.0
6人～10人以下	4	16.0	4	16.0
11人～20人以下	5	20.0	5	20.0
合計	25	100.0	25	100.0

4. 小売業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期は▲57.2と前期比で7.2ポイント悪化している。一方、来期は▲38.8と改善する見通しである。商品仕入単価D Iは、今期は18.4と前期比で7.6ポイント低下（改善）している。一方、来期は28.5と上昇（悪化）する見通しである。採算D Iは、今期は▲57.2と前期比で5.2ポイント悪化している。一方、来期は▲40.8と改善する見通しである。資金繰りD Iは、今期は▲44.9と前期比で6.9ポイント悪化している。一方、来期は▲36.7と改善する見通しである。

今期は、採算D Iを除いて悪化している。一方、来期は、採算D Iを除いて改善する見通しである。

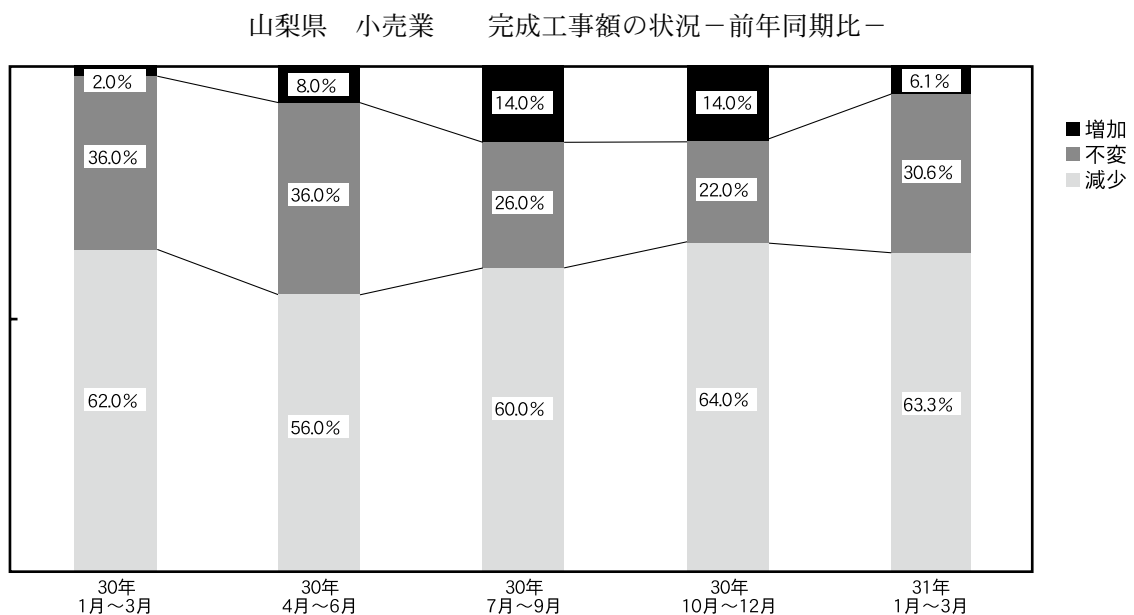


(2) 主な項目で見る業況

① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数49社（前回 50社））

「増加」と答えた企業の割合は、6.1%（3社）と減少（前期比▲4社）。

「不変」は30.6%（15社）と増加（前期比+4社）、「減少」は63.3%（31社）と減少している（前期比▲1社）。



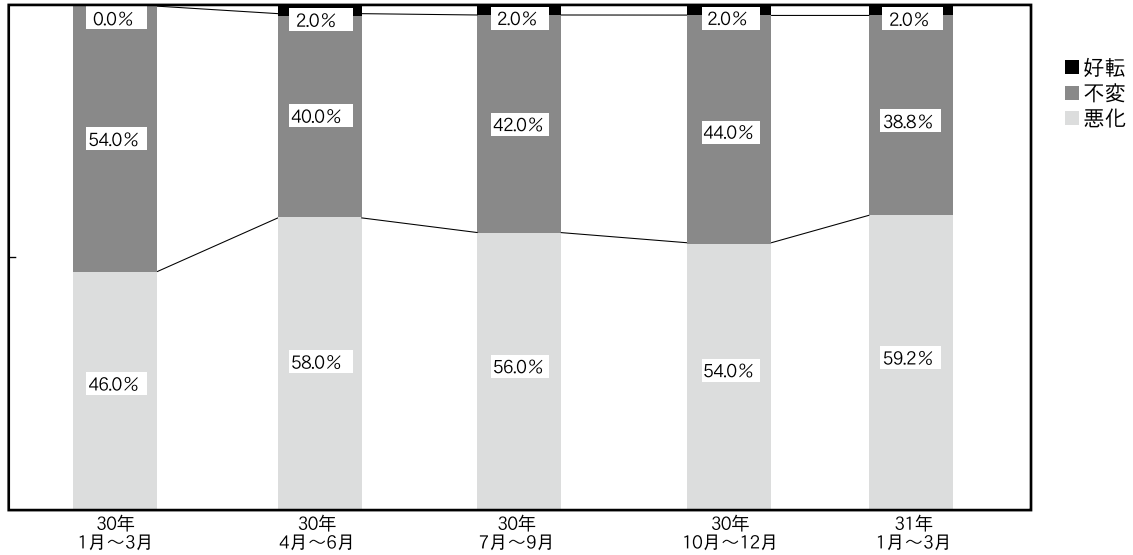
② 採算（採算D Iの内容（回答企業数49社（前回 50社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、2.0%（1社）と横ばい。

「不変」は38.8%（19社）と減少し（前期比▲3社）、「悪化」は、59.2%（29社）と増加している（前期比+2社）。

山梨県 小売業 採算の状況－前年同期比－

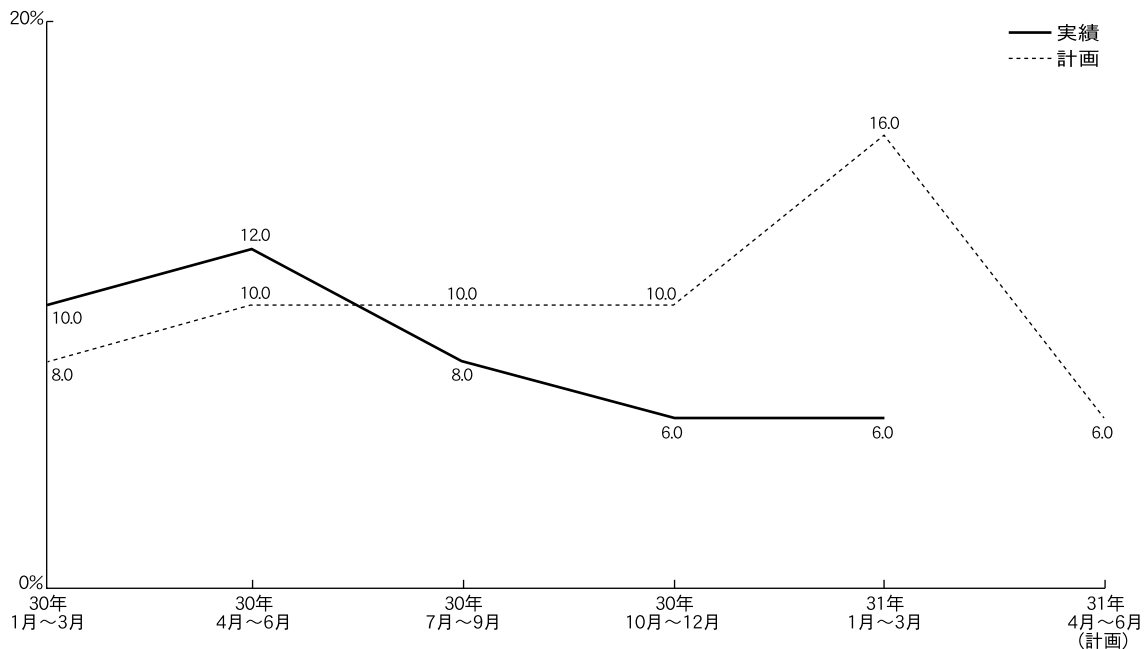


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数50社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は6.0%（3社）であった。その設備投資の内容は、「店舗」、「車両・運搬具」、「その他」が1件ずつであった。

来期の計画については、6.0%（3社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「OA機器」が2件、「販売設備」、「その他」が1件ずつになる。

山梨県 小売業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数46社）

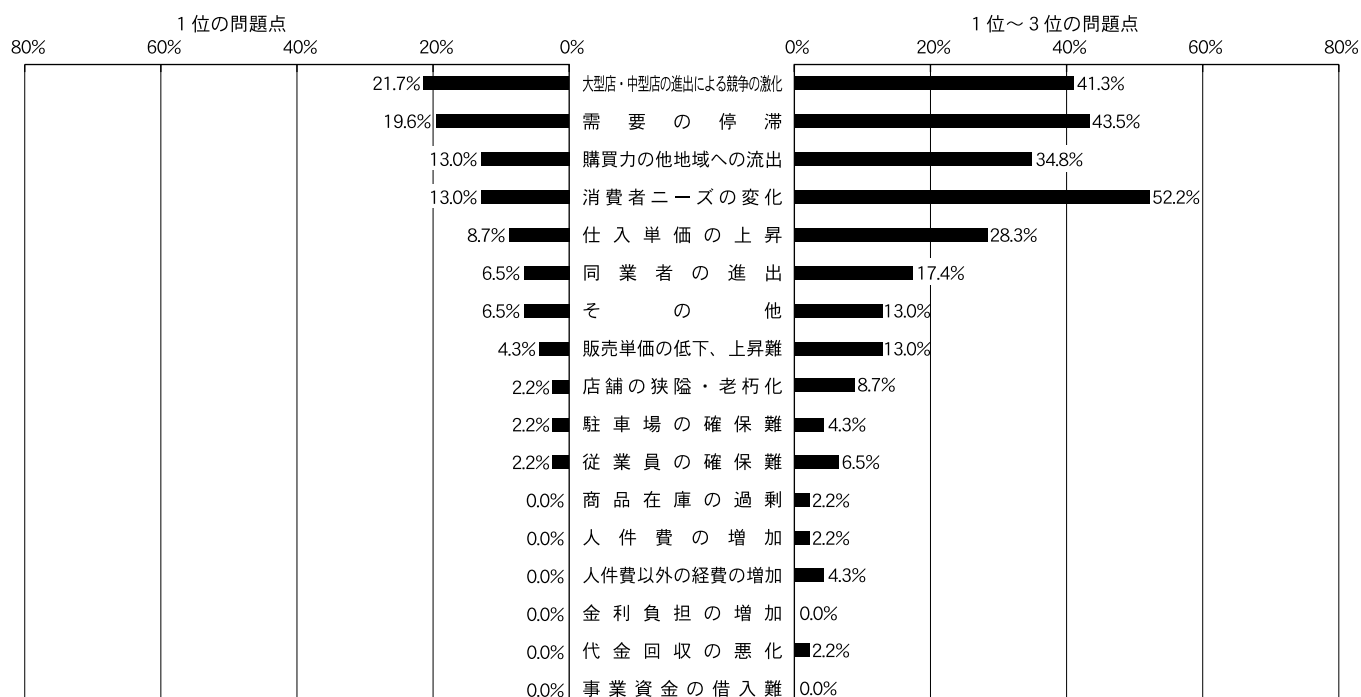
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「大型店・中型店の進出による競争の激化」の21.7%（10社）であり、2番目に多かったのは、「需要の停滞」の19.6%（9社）である。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「消費者ニーズの変化」の52.2%（24社）であり、2番目に多かったのは、「需要の停滞」の43.5%（20社）である。

山梨県 小売業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
各種商品小売業	0	0.0
織物・衣服・身の回り品小売業	12	24.0
飲食物品小売業	17	34.0
自動車・自転車小売業	2	4.0
家具・建具・じゅう器小売業	4	8.0
その他小売業	15	30.0
合計	50	100.0

従業員規模別

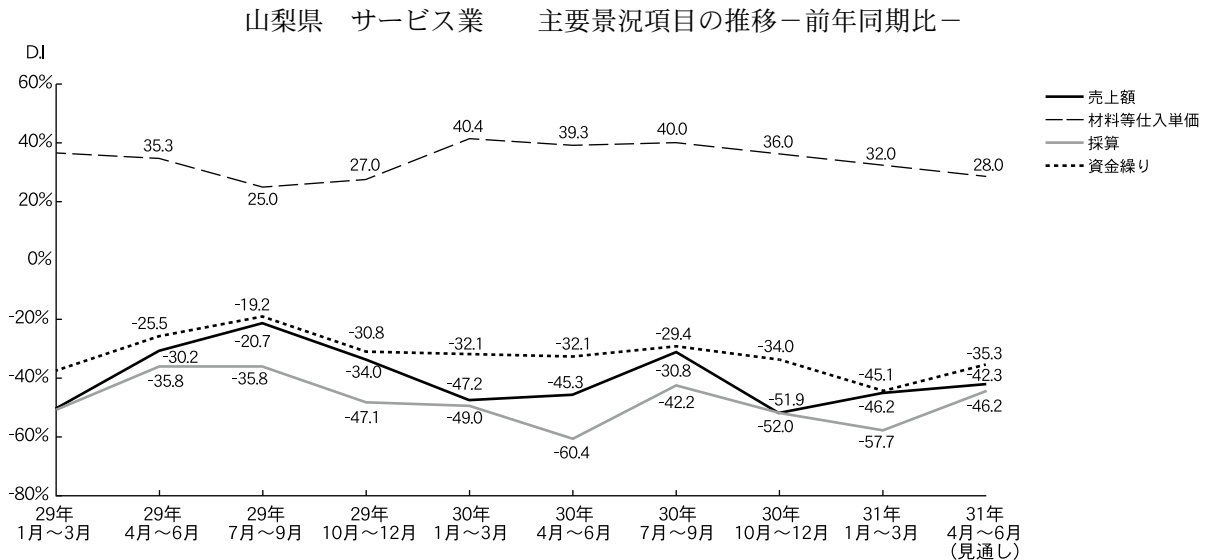
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数(%)	構成比(%)	企業数(%)	構成比(%)
2人以下	45	90.0	39	78.0
3人～5人以下	5	10.0	11	22.0
6人～10人以下	0	0.0	0	0.0
11人～20人以下	0	0.0	0	0.0
合計	50	100.0	50	100.0

5. サービス業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期は▲46.2と前期比で5.8ポイント改善している。来期は▲42.3と更に改善する見通しである。材料仕入単価D Iは、今期は32.0と前期比で4.0ポイント低下（改善）している。来期は28.0と更に低下（改善）する見通しである。採算D Iは、今期は▲57.7と前期比で5.7ポイント悪化している。一方、来期は▲46.2と改善する見通しである。資金繰りD Iは、今期は▲45.1と前期比で11.1ポイント悪化している。来期は▲35.3と改善する見通しである。

今期は、採算D I、資金繰りD Iが悪化している。一方、来期は、全てのD Iが改善する見通しである。

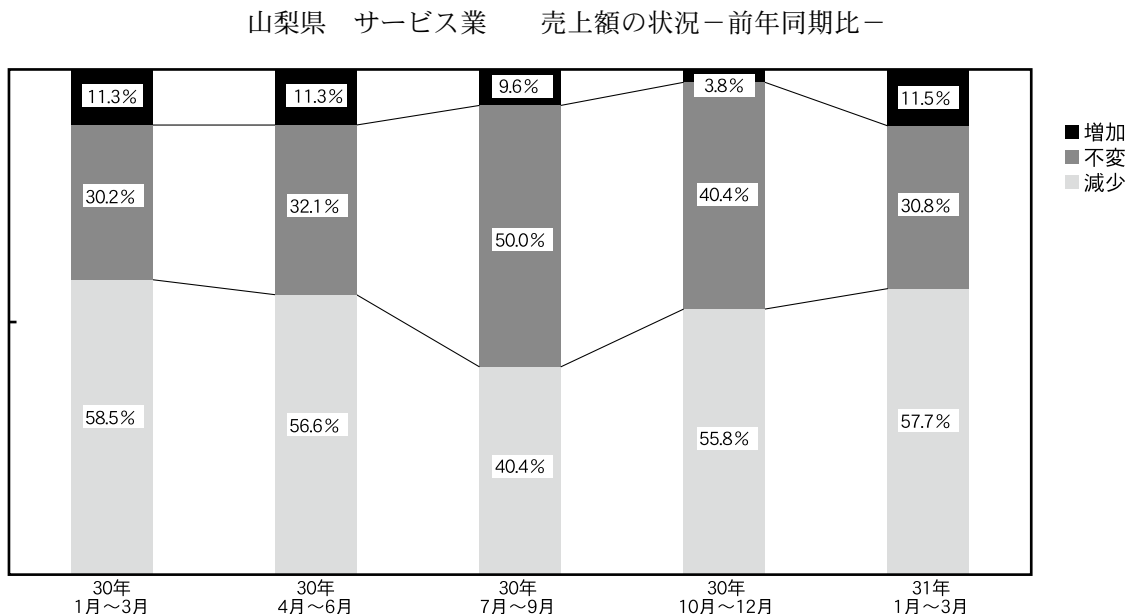


(2) 主な項目で見る業況

① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数52社））

「増加」と答えた企業の割合は、11.5%（6社）と増加している（前期比+4社）。

「不変」は30.8%（16社）と減少（前期比▲5社）、「減少」は57.7%（30社）と増加している（前期比+1社）。



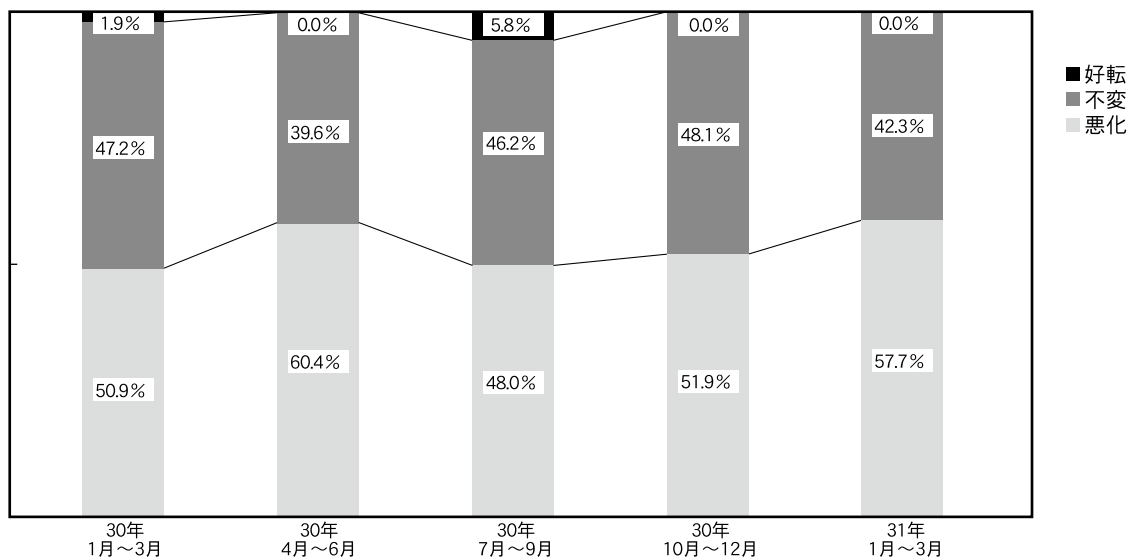
② 採算（採算D I の内容（回答企業数52社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、0.0%（0社）と横ばい。

「不変」は42.3%（22社）と減少し（前期比▲3社）、「悪化」は57.7%（30社）と増加している（前期比+3社）。

山梨県 サービス業 採算の状況－前年同期比－

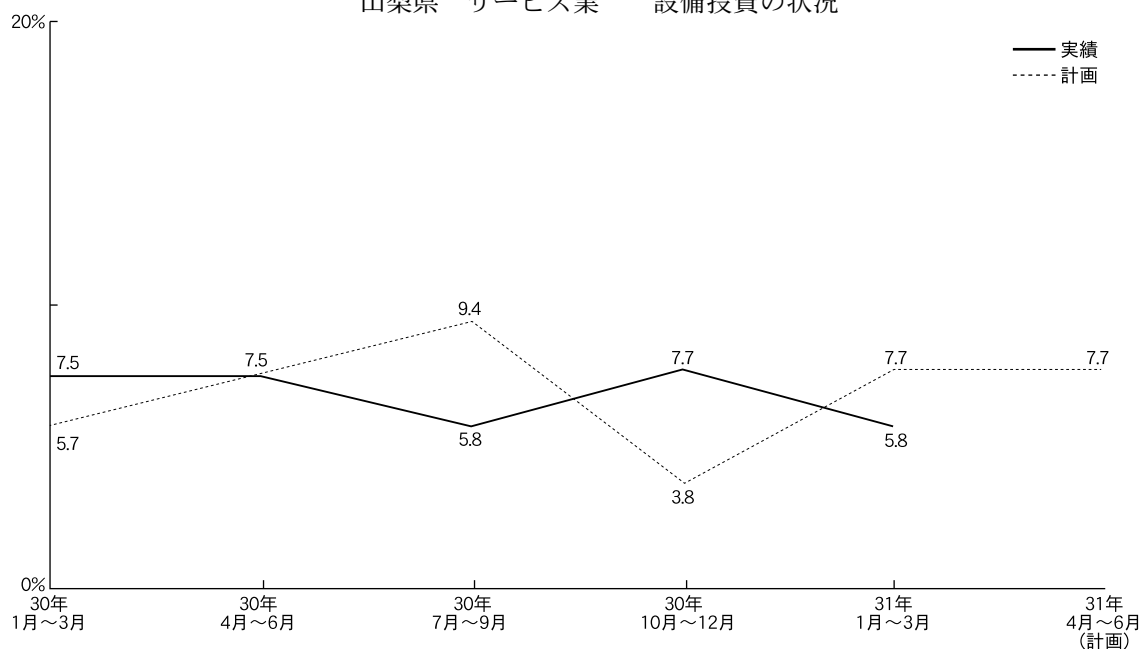


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数52社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は5.8%（3社）であった。その設備投資の内容は、「車両・運搬具」、「付帯施設」、「その他」が1件ずつであった。

来期の計画については、7.7%（4社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「サービス」が3件、「車両・運搬具」が2件、「OA機器」が1件になる。

山梨県 サービス業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数48社）

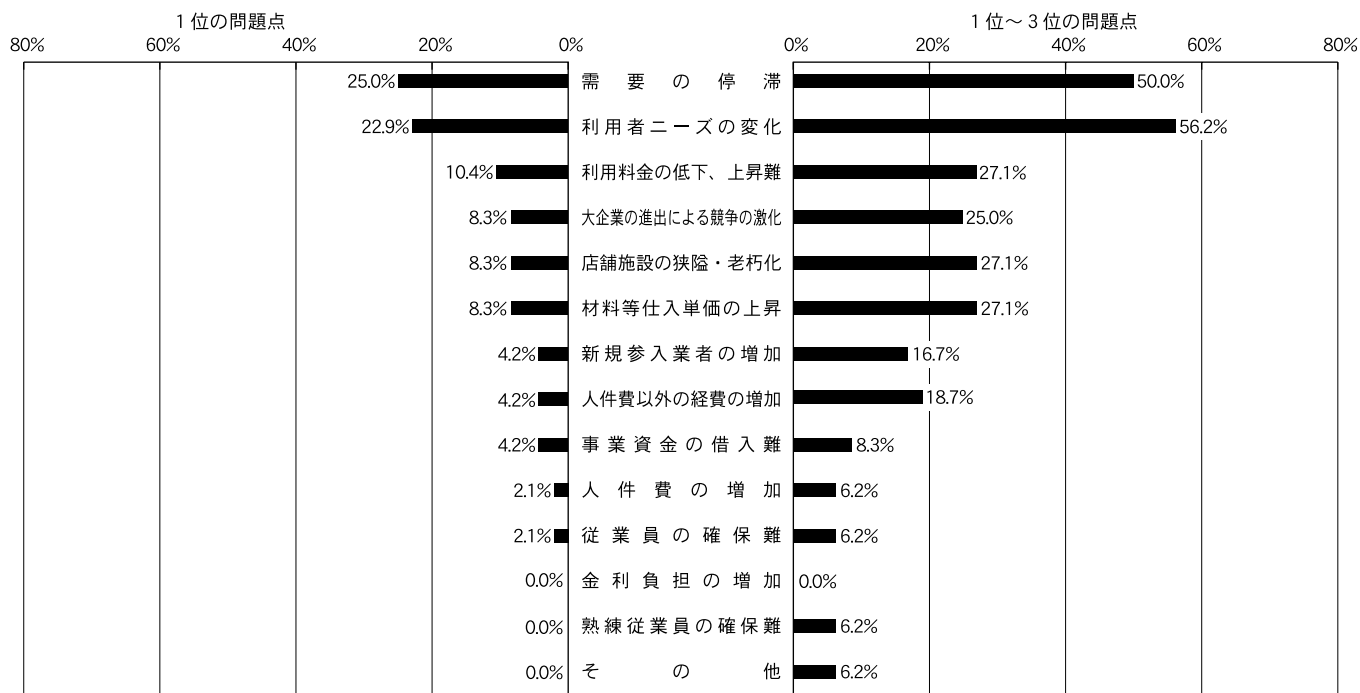
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「需要の停滞」の25.0%（12社）であり、2番目に多かったのは、「利用者ニーズの変化」の22.9%（11社）である。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「利用者ニーズの変化」の56.2%（27社）であり、2番目に多かったのは、「需要の停滞」の50.0%（24社）である。

山梨県 サービス業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
一般飲食店（一般・遊興）	18	34.6
宿泊業	7	13.5
運送業	2	3.8
自動車整備業	3	5.8
洗濯・理美容業	19	36.5
その他のサービス業	3	5.8
合計	52	100.0

従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数(%)	構成比(%)	企業数(%)	構成比(%)
2人以下	44	84.6	40	76.9
3人～5人以下	8	15.4	12	23.1
6人～10人以下	0	0.0	0	0.0
11人～20人以下	0	0.0	0	0.0
合計	52	100.0	52	100.0